

科学研究推進WG活動報告

児玉 利忠

(1) 活動記録

本WGのおもな目的は科学研研究費補助金（奨励研究）へ応募し、採択されることを勧め、技術職員としての研究活動を奨励することである。そのためのおもな活動として希望者に対する応募書類の事前チェックを行っている。

本年度から、研究計画調書の作成に早く取りかかってもらうために、例年より早く夏休み前に、研究計画をたてるための昨年度本学技術部の採択された研究計画調書のサンプルおよび資料を配布した。また例年通り応募要領の変更点や応募書類作成上の注意点を要約して配布した。さらに本学研究協力課が行う事前チェックで用いているチェックリストを技術部用に手を加えたものを配布し、応募直前にセルフチェックしてもらい記入要領等の間違いを減らすようにした。

以下に活動の概略と連絡会の議事概要を記す。

活動概略

- 4月 4日 平成25年度科学技術研究費補助金（奨励研究）の内定者についてメール通知
- 4月16日 平成25年度科学研究費補助金奨励研究採択者に応募書類のサンプル提供をメール依頼
- 6月 3日 不採択者の審査結果についてメールによる問合せ
- 8月 1日 平成26年度の応募に向けた応募書類のサンプル・研究計画の書き方資料等のメール配信
- 8月 6日 学長裁量経費「科学研究助成事業の採択につながる事業」の申請についてメール通知
- 10月11日 平成26年度の応募スケジュール、相談会、事前チェックについてメール通知
- 10月28日 応募書類の提出方法、応募書類の変更・注意点をメール通知
技術部用セルフチェックシートをメール配布
応募書類作成上の注意点兼サンプル（研究計画調書・応募カード）をメール配布
- 11月11日～20日 応募書類の事前チェック
 - 11月11日 事前チェック受付開始
 - 11月15日 事前チェック受付締切り
 - 11月20日 事前チェック後返却完了
- 11月13日 研究協力課の応募書類チェックについてメール通知
 - 11月11日～15日 研究協力課の応募書類チェック期間
- 11月25日 応募書類の技術部内提出締切り
- 11月25日 研究協力課にまとめて提出（午後4時）

連絡会議事概要

- 7月24日 第1回連絡会
 - ・審査結果および採択件数の推移について報告
 - ・採択件数増加についての検討
 - ・来年度の応募、早期取り組みのための情報と配信について
- 10月10日 第2回連絡会
 - ・応募に関する活動日程の決定
 - ・相談会の日程決定
 - ・研究協力課のチェックリストを技術部向けに追加・変更する箇所を各委員で検討することを確認

- ・チェックリストは技術部全員に配布するがセルフチェック用とし、提出不要とする
- ・事前チェック方法および受付期間の決定
- ・再雇用職員の取り扱いについて
 - 申請・研究については問題ないことを確認（研究協力課・坂本課員）
 - 科研データベースには特任・特命技術職員の採択者の登録はないことを確認

10月24日 第3回連絡会

- ・計画調書・応募カード・依頼書の記入要領変更点の洗い出し作業
- ・応募書類作成上の注意事項およびサンプルについての検討
- ・事前チェックに関する申し合わせについて確認

12月5日 第4回連絡会

- ・応募状況の報告
- ・研究協力課（坂本課員）への奨励研究応募に関する要望等問い合わせとその回答の報告
- ・事前チェックにおいて発覚した問題点や注意点の報告
- ・事前チェックをどのようにしてほしいのか、する方とされる方双方がわかるような仕組みについて

(2) 活動成果

応募書類の事前チェックについては多くの人の考えを参考にしてもらうことを目的として、前年度に引き続き1件の応募書類に対して3名の委員がそれぞれチェックを行う態勢を取っている。ただし本年度は、定年を迎える奥林委員には自身が応募しないこと、また多数の採択実績もあることから依頼のあった応募書類すべてのチェックをお願いした。実際の事前チェック依頼件数は前年度5件に対し8件であった。応募件数は前年同様29件、応募率は78.4%から79.4%へ微増、採択件数は前年同様3件であった。

H25年度科研費奨励研究 採択3件、不採択26件（内訳 A判定7件、B判定13件、C判定6件）

氏名	課題名（課題番号）	交付額（千円）	応募専門分野	技術部所属
熊迫 博文	マイクロデバイス中における効果的な光触媒の固定と実験システムの構築 (25915010)	500	理工系・化学	環境・化学系第二技術班
奥林 豊保	辺境地域等の過酷な条件下での活用に特化したメンテナンスフリー小型風車の開発 (25917008)	600	理工系・工学I（機械）	総括技術長
岩見 裕子	七島イの優位特性の解明と七島イ由来のカーボンニュートラルな原料の検討 (25921004)	600	理工系・工学IV（材料・生物工学系）	環境・化学系第二技術班

(3) 今後の展望

科研費奨励研究の応募件数を増やすことは重要であるが、定年退職による再雇用職員が今後増加していくことを考えると、応募件数を増やすことは見込めない。さらに要望のない（応募件数の少ない）ところの予算（科研費補助金）は容赦なく削られ、採択件数を増やすのはさらに難しくなる。このような状況を考えると採択件数を維持しながら、僅かでも増やしていけるように取り組んでいく必要がある。そのためには、研究計画調書における課題名の選定や研究計画の記述内容の向上を図ることが重要であると思われる。